

# 会 議 録

## 1 会議名

令和3年度 第2回上越市介護保険運営協議会

## 2 あいさつ

## 3 議事

(1) 上越市介護保険運営協議会について

(2) 上越市第8期介護保険事業計画・第9期高齢者福祉計画について

(3) その他

## 4 開催日時

令和3年11月17日(水) 午前10時～午前11時

## 5 開催場所

上越市役所木田第1庁舎 401会議室

## 6 傍聴人の数

0人

## 7 出席した者(傍聴人を除く。)氏名(敬称略)

- ・委員：藤原敬人、山田洋子、熊木敏夫、古川和代、竹内明美、竹山貞子、  
中澤健一、松本新一、佐藤秀子、青山昇、中川博之、竹田圭介、  
矢澤智也、石田さとみ、倉茂浩司、原等子、吉村敏樹、小山敏、  
大滝幸治、南部ヒロ子
- ・事務局：笠原福祉部長、小林高齢者支援課長、橋本副課長、伊藤副課長、  
清水係長、福田係長、小松係長、廣瀬作業療法士長、白砂主任
- ・関係課 すこやかなくらし包括支援センター：岩崎次長  
健康づくり推進課：伊倉保健師長

## 8 発言の内容

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. あいさつ

4. 正副会長選出

## 5. 議事

### (1) 上越市介護保険運営協議会について

小松係長：資料 1 に基づき説明

(質疑なし)

### (2) 上越市第 8 期介護保険事業計画・第 9 期高齢者福祉計画について

小松係長：資料 2 に基づき説明

#### 【原 委員】

第 8 期介護保険事業計画・第 9 期高齢者福祉計画（以下、「計画」という。）の策定にあたり、市民の声をどのように聴取したのか。

#### 【小松係長】

在宅で要支援・要介護認定を受けている人と介護者を対象に「在宅介護実態調査」を実施し、在宅で介護を受けながら、また、介護をしながら安心して生活するためには、どのようなサービスが必要かを検証した。

在宅介護では、夜間の排泄介助等について不安を感じる人が多いが、訪問サービスの利用回数の増加によりこの不安が軽減される傾向にあることから、訪問・通い・宿泊サービスが受けられる小規模多機能型居宅介護施設の 1 施設を令和 4 年度に新たに整備することとした。

そのほか、パブリックコメントを実施し、市民の声を聴取している。

#### 【原 委員】

上越市の医療が脆弱な状況にあることに加え、後期高齢者が増え多死時代に向かっていく中で、在宅看取りの取組が計画に記載されていない。

山間部では、近くに訪問看護ステーションがなく、また、在宅医療を行う医師もいないため、都市部の医療施設に入院せざるを得ない状況である。

このような医療体制と在宅医療の脆弱性が介護保険サービスを逼迫しており、今、必要なことは、小規模多機能居宅施設といった箱物を整備することではなく、サービスそのものを充実させることだと考える。

#### 【小林課長】

医療との連携も非常に大切だと考えるが、新潟県は、全国で医師の数が最も少ない状況にあり、在宅看取りの取組はなかなか難しい問題である。

ただ、計画上、医療との連携に関する取組が弱いという点は、ご指摘のとおりであり、次期計画の策定に際しては、医療側の状況も踏まえながら、可能な範囲で必要な取組を検討していきたい。

**【藤原会長】**

上越医師会内に「上越地域在宅医療推進センター」が設置されており、在宅医療に関する活動を行っている。ただ、医師の数が少ないため、なかなかうまくいかない部分はある。また、ICT（インターネット）を活用した取組も進めているが、まだ、参加者が少ない状況である。

**【矢澤委員】**

住み慣れた地域で暮らし続けることは必要なことだと考えるが、訪問介護をはじめとした在宅福祉サービスを行う中で、中山間地域における介護サービスが非常に不足していると感じる。

特に、ここ数年は、事業所の撤退や職員の高齢化・離職などで、ニーズがあってもなかなか応えることができない状況である。

このような中、地域の中での支え合いをより強化していく必要があり、また、介護サービスを提供する専門的な職員の採用・育成・定着が喫緊の課題だと考えている。

**【原 委員】**

オレンジプランについてであるが、上越市は地域支え合い事業の対象者と認知症カフェの利用者が同じであり、認知症カフェ本来の考え方とずれていると感じる。

先進地である京都市や仙台市などを参考にしながら、認知症カフェの在り方を再検討してもらいたい。

**【小林課長】**

認知症カフェについては、幅広く地域のことを行う地域支え合い事業とは別に、もう少し専門的なものにできないか、現在、すこやかに暮らし包括支援センターと検討しているところである。

**【佐藤委員】**

資料2の5ページ「上越市における介護保険制度の将来像」について、①～④の4つの目標があるが、順位はあるのか。自分の将来を考えた時に、②の「一

人一人が介護予防の重要性を認識し、生活習慣病等の重症化予防を始め、介護予防に取り組んでいる状態」が一番上位にきてもらいたいと思う。

【小林課長】

順位はないが、介護予防に気を付けて健康であれば、介護保険サービスを受ける必要もなくなるため、②は何よりも大事であると考えている。

(3) その他

【小林課長】

次回については、計画の進捗を検証していただくことになるため、来年度、令和3年度の事業実績がまとまった段階で開催したいと考えている。

9 問合せ先

福祉部高齢者支援課介護指導係

TEL025-520-5704

E-Mail : kaigo@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。